

入選 小学生の部

「思いやりは心のワクチン」

浜松市立井伊谷小学校 五年

池田 杏璃

私の母は、かんごしをやっています。コロナウイルスが、流行してから、いつも仕事から帰ってくるのとくたくたです。でも、母は、つかれているはずなのに、弱音一つはかずにご飯を作ってくれます。私はそんな母を楽にさせてあげたいです。そこで、思いやりで心のワクチンを作ることになりました。少しでも母が楽になれるよう、お皿洗いと洗濯物をやりました。すると、「ありがとう。助かったよ。これからもよろしくね。」と言ってくれました。私にも、思いやりワクチンが作れたと、うれしくなりました。

私の家は、協力制です。母は、ご飯やそうじ。父は、食後のかたづけや朝のおふろ

そうじなど、姉はおべんとう箱などを洗います。私は、お皿洗いや、洗濯物をたたみます。妹は食たくをふいたり、ご飯の準備をします。このように、私の家には、思いやりのワクチンを持っている人がたくさんいると思います。

思いやりのワクチンは、他にもあります。例えば、私は、コロナワクチンを二回打ちました。でもコロナワクチンは、むげんだいいには、ありません。ですが、思いやりのワクチンは、だれにでもむげんだいになります。

そこで、家族だけではなく、友人にも、使ってみようと考えました。一学期に、係の仕事を手つだつた事があります。そのとき友人は、「ありがとう。」と、言ってくれました。私は、とても、いい気持ちになりました。

思いやりワクチンは、コロナワクチンとは、少しが違います。

コロナワクチンは、研究者が作りますが、思いやりワクチンは、だれでもみんなが、作れます。コロナワクチンは、注しやする

と、こう果が出ますが、思いやりワクチンは、心の中に想うだけで、こう果がでます。

ですが同じところもあると思います。それをさがすために、いっぱい勉強したいと思います。私には、思いやりワクチンと、コロナワクチンのちがいが、最初はわかりませんでした。ですが書いていくうちに、だんだん分かってきました。なので、これだけたくさん書けたんだと、思っています。

このように、思いやりワクチンは、だれにでも、むげんだいに作れるので、私も、もっともつと作り、使っていきたいです。そして、みんなもたくさん作り、使ってくれば、楽しい世の中になるのだと、思います。



思いやりは心の種

袋井市立高南小学校 五年

石川 凌佑

ぼくは、毎日バスで学校に行っています。同じバスで通っている子たちの中に体の不自由な下級生がいます。その子は、ちょっと体が不自由だからか同級生から、

「横入りしないで。」

と言われたり他の子たちからも、

「そうだ、そうだ。」

と責められるように言われてしまいました。そんな子たちを注意してくれる上級生もいないので、みんなでいやなことをたくさん言っていました。

ぼくは、「どうしてあんなことをするのかなあ。」と思っていました。そこでぼくは、少し考えました。「どうしたら、あの子がいやな思いをせずにすむのかなあ。」と。そして思いつきました。「あの子の手伝いをしよう。」

その子は、いつもバスの中でも動きが遅

いです。だから、ぼくはその子を軽く押しあげることになりました。そうしたら、少しずつだけど同級生の動きに追いついていけるようになりました。ぼくは、心の中で「よかったあ。」と思っていたけれど、ぼくにはまださびしそうに見えました。だから、ぼくはまた考えました。「どうしたらあの子も楽しく登校できるのかなあ。」

いろいろ考えて、ぼくは帰りだけでも積極的にその子に話しかけることにしました。その子は最初はもじもじしていたけれど、少しは仲よくなれたつもりです。そして少しだけさびしそうな顔もへってきたように見えました。

その後も半年くらいバスをおりた後もその子の背中を押し続けました。そうしたら、それを見ていた先生がほめてくれました。今では、ぼくの友達も手伝ってくれています。

ぼくは自分のやったことでのいろいろな人が気持ち良くなってくることがうれいんです。ぼくが背中を押ししたあの子は、今では前よりも速く歩けるようになっています。「いっしょに遊ぼうよ。」

と言ってくれる友達もできたみたいで前よりも楽しそうに思えます。

ぼくのした事はちょっとした事だけれど、このことで、ぼくは最近こう思うようになりました。「もしもまた、あの子にいやなことを言う子がいたら今度は注意できるようにやさしくて、かっこいい高学年になりたい。」と思いました。

「思いやりは心の種」小さな行動でも、それがだれかの状況を変えることもできるし、見た人にもえいきょうを与え自分の心にも新しい気持ちをつくることがあります。小さな行動が種になりいろいろな人の心で育つといいです。

「周りの幸せが自分の幸せ」

袋井市立浅羽北小学校 五年

神谷 朋佳

私は、めんどくさがりだ。いつも、ぐうたらしていたい。最近、両親の手つだいをしていない。両親はつかれているから、手つだいをしたほうがいいと思った。

私は、お母さんに何を手つだえばいいか聞いてみた。するとお母さんは、「朝ごはんです使ったしよつきをあらってほしい。」

と、言われた。私はそんなことでいいのかと思った。そして、次の日の朝にやってみることにした。いざやってみるとすごく大変だった。調理器具は重いし、せんざいで手はヌルヌルするし、正直いやだった。でも、自分から言い出したことだし、こんな大変なことをお母さんがいつもやってくれていると思うと、がんばろうと思った。

何日もやっている、だんだん慣れてきた。いやとも思わなくなった。むしろ少し

楽しくなっていた。何でだろう。自分がこんなふうに見えることは初めてだった。不思議だった。でも、こんなにうれしいことはいままでになかった気がした。私は、もっと手つだいたいと思うようになった。毎日のように手つだうことはできなかった。勉強などが忙しかったからだ。でも、手つだえることは手つだった。それに、しゅみんぼっとうしてしまったから。

母は最近いつもよりつかれていた。これは、手つだいをするしかないと思った。でも、皿洗いや洗たく物をたんでもいいと思うけど、母のつかれをとってあげたほうがいいと思った。そして、私はかたもみやかたたたきなどのマッサージをすることにした。いざやってみると、めちゃくちゃ固かった。全然マッサージしている感じがしなかった。でも、きいているらしい。だんだんやっているうちに、きちんとできるようになってきた。親指がいたくなることもあるけど、自分が成長していると思う。うれしかった。このとき私は、手つだいをすることは、周りの人だけでなく、自分の

幸せになっていくことに気付いた。結果的に、自分が成長しているのなら、よかった。私は、周りの人達の手つだいをすることで自分の成長につながった。つまり、周りの幸せが自分の幸せと、いうこと。勉強では学べないことを学べた気がした。これからも、自分ができることをできるだけやっていこうと思った。



ぼくの気持ち

浜松市立有玉小学校 三年

金原 悠馬

ぼくは、自分で自分の気持ちをうまく伝えられません。心の中ではたくさん思っていることがあるのに、それを口に出して相手に伝えることができません。そのかわりにいつも言ってしまう。うまく言えなくてどうしようもなくなるとなくんです。ぼくのお母さんは、

「口で言わないと相手に伝わらないんだよ。」

といつも言ってきます。そうするとぼくは心の中でいつも、

「わかってる。でも…。」

となくのです。

学校である時、友だちの赤青えんぴつが落ちていたのを見つけてきました。つくえの上に拾ってあげました。ただ落ちていた赤青えんぴつを拾ってつくえの上においてあげただけなのに、なんだかドキドキしました。その後、友だちはふり返って、

「ありがとう。」

と言ってくれました。ただ赤青えんぴつを拾ってあげただけなのに、おれいを言ってもらえて、とてもうれしい気持ちになりました。

ぼくの中では、人になにかを口に出して言うことはとてもむずかしいです。頭の中ではたくさん色んなことを考えているのに、うまく言えないからです。友だちにおれいを言ってもらえたので、ぼくもなにかしてもらったらちゃんと言えるようになります。学校に行く時、知らない人がぼくに、

「おはよう。」

と言ってくれました。ぼくは勇気を出して、

「おはようございます。」

と言いました。とてもうれしい気持ちになりました。知らない人がぼくにあいさつしてくれてたこともうれしかったです。ぼくがあいさつできたことはもつとうれしかったです。いつもは、はずかしくて下を向いて通りすぎてしまっただけでした。勇気を出してあいさつできて本当によかったです。

ぼくの中で、あいさつすることは、自分の気持ちを伝える一つの事として、だんだんできるようになってきました。ぼくのお母さんが、

「口で言わないと伝わらないんだよ。」

と言ってくれていることは、頭の中ではわかっていきます。ぼくのために言ってくれているんだなとわかっています。言ってもらえないとにもできないぼくです。本当はお母さんに伝えたいです。

「いつもぼくのためにありがとう。」

と。

みんな平等に

浜松市立豊岡小学校 六年

杉山 結芽

私がようち園の時、同じクラスにダウン症という障がいがある男の子がいました。

ダウン症は、背が小さいなど見た目が私とはちがう部分があるようです。でも、小さいころの私は、障がいについてなにも知らず、クラスの仲良しな友だちとして遊んでいました。その子はとてもやさしくて、よくおしゃべりもして、いっしょにいて楽しかったです。そんな時、担任の先生から、

「おゆうぎ会の際に、手をつないでぶたいへいっしょにあがってきてくれる？」と言われました。私は、どうしてそんな事を言うのか不思議でした。また、卒園式の際に、その子のお母さんから、
「いろいろありがとうね。」

と言われたことも、ずっと不思議でした。

その後、私が小学生になり、障がいについて学ぶことができました。いろいろな障

がいを知っていく中で、ようち園のときのあの子はダウン症だったのかなと思いましたが、でも、障がいを知ったからといって、変わった目で見たり、関わり方を変えるのはちがうと私は思います。それは、私もその子に教えてもらったり、手伝ってもらったことがあるからです。

また、昨年、テレビドラマで、「恋です！ ヤンキー君と白杖ガール」という番組がありました。私はその物語にはまり、夢中で観ていました。目の見えない障がいのある主人公の女の子やその友達が、目の見えないことを理由に、苦労したり、たくさんのかべにぶつかったりしていました。私はそのたびに悲しくなったりけれど、主人公の女の子の努力する姿や、周りの人の応援に感動しました。

このように、私は、自分の経験や、テレビドラマから、障がいのあるなしは関係ないと思えました。だれでも、生活していれば、人に迷わくをかけるし、だれかの支えがなければ、生きていけないと思います。だから、一人一人のちがいを認め合って、だれでも

みんな平等に、助け合っていける世界になってほしいと感じます。そのために、私ができることは、困っている人がいたら助け、小さな親切を大切にしていきます。



「親切って」

湖西市立東小学校 六年

鈴井 来琉

小さな親切を改めて考えると、親切な事をしようと思つてやっていないから、とても難しい。なのでお母さんに、

「ぼくって何か親切な事してるっけ。」

と質問を試してみたところ、お母さんはこう言いました。

「この前みんなでゴミ拾いに行ったじゃん。あれはすごい親切な事だよ。」

と。あれって親切なんだ。ぼくはそんな風に思つてやった事ではなかったから、少しびっくりしました。

その出来事とは、七月二日の事です。学校がお休みの土曜日の午後よく晴れた暑い暑い日でした。ぼくは、大親友のいつきさんと、仲良しのみくさんといっしょにゴミ拾いをしに行く約束をしていました。きっかけはぼくが二人に、

「いっしょに今度の土曜日、ゴミ拾いしない？」

と言つた事でした。

ぼくはきつと断られてしまうだろうなと思つたけど、二人の答えはぼくが期待した通り、

「行く、行く。」

と元氣一杯のうれしい返事でした。

ゴミ拾い当日。お父さんは出かける前に、「軍手はあるか？ゴミ袋持ったか？水筒持ったか？帽子持ったか？」

と、せかせかとぼくの準備を手伝つてくれながらも、なんだかその顔はニコニコしていてうれしそうでした。

「お父さん、何でそんなに笑っているの？」

ぼくは思わず聞いてみると、お父さんは、

「だつてうれしいよ。いつもキャンプに家族で行くと、最後帰る前に、みんなでゴミ

拾いをするだろ？それが来琉も自然に身に

ついて、自分でみんなにゴミ拾いしようなんていつてくれたんだからさ。しかもこんな暑い夏の日

に、ゲームじゃなくてゴミ拾いなんて中々できる事じゃないんだよ。」

と言つてくれました。

その後いつきさんとみくさんの家へ行

き、みくさんの家の近所のゴミ拾い後、三人で自転車で二キロ近くはなれた女河八幡

宮という神社へ移動。この場所も次に移動した海岸沿いも、思つていたほどゴミはあ

りませんでした。きつとぼくが今回ボラン

ティアでゴミ拾いをした様に、他にも親切な人がゴミを日々拾っているのではない

なと思ひました。それでも湖西市指定の燃えるゴミ袋一袋と、燃えないゴミ半分程が

たまりました。ペットボトルなどの資源ゴミは帰り道に指定の資源ゴミステーション

へ捨てに行きました。がんばつた三人にごほうびで、いつきさんのお母さんがみんな

で飲みなさいと、三人分のサイダーを買つてくれたのですが、ぼくは暑くてのどがか

わいたせいか、一気に飲み干してしまいました。それと何だかとてもいい気分でした。

ゴミ拾いを終えて、家に帰つてくると家ぞく全員が笑つて、むかえてくれました。

これからも親せつをしていきたいです。

地球にも親切を

三島市立山田小学校 四年

増田 実茉

(何でこんなにゴミがたくさん落ちて
いるの?)

私はしよげきでした。

私の家族はみんな海が大好きです。夏は泳ぎに行くし、夏以外も、つりに行ったりさん歩をしに行きます。よく行く所は水もきれいだし、海岸もあまりゴミは落ちていません。だから私は、その日さん歩に行った海のきたなさにシヨックを受けました。

大きな石や岩がゴロゴロあり、太い流木もたくさんあって何だかつかっこいい海岸に、見渡すかぎりゴミがおちていました。ペットボトルやビン、コンビニの袋、何に使うか分からないプラスチックの大きなはこ。くつや洋服もあって、私は悲しくなりました。地球はもっと悲しんでるだろうなと思います。

(きれいにしたい)

そう思った私は、拾えるサイズのゴミを集めました。

「持って帰りたい!ゴミ袋ない?」

と言ったけど、その日は大きなゴミ袋がなく、

「せつかくだから一つにまとめておこうか。そうすればきつとだれかが気づいてすてくれるよ。」

とお母さんは言ったけど、私は心の中ですごく残念でした。全部をきれいにするのが無理でも、車につめる分くらいは私を持ち帰ってしよ分したかったからです。

地球は私たちの大きな家だと思います。どうして自分の家を平気でよごせる人がいるのかと思うと、悲しいしはらが立ちます。お母さんがこのゴミは半分くらいは外国から流れてきているみたい。と言っていました。

海も地球の一部で、世界中つながっています。どこかのだれかが捨てたゴミが、私の行く海をよごしています。

「ゴミ袋をたくさん持ってもう一度ここに来る!!」

私は大きい声でせん言しました。全部ひろうのは無理でも、私にできる事はやりたいからです。

「そうだね。また来ようね。ゴミ袋たくさん買わないとだね。」

とお母さんは笑っていました。

私はふだんからゴミのポイ捨てをする人がいる事が悲しいです。お年よりや小さな生き物にする様に、地球にたいしても親切な心を持ってみたいです。地球はしゃべらないけど、一人一人が少しの親切をする事で、良いかんきょうを私たちにあたえてくれると思います。自分達のためになる事は、地球のためになるはずです。

私は、あの海岸がきれいになる日が来ると信じています。



入選

迷わない親切

浜松市立佐鳴台小学校 五年

山崎 蘭

ある日、玄関のドアを開けると一緒にいた母の携帯電話が鳴りました。母は、

「A君のお母さんだ。」

と言って電話に出ました。A君は私の同級生で、弟のB君は小学二年生です。

「え？大変！大丈夫ですか？」

母がびっくりするほど大きな声で言いました。電話を切った後、母は私に、

「A君とB君コロナに感染したんだって。」

と言いました。母も私もとてもびっくりしました。当時は、コロナの情報が十分に入って来ないような時でしたがA君のお父さんは医療従事者でコロナの危険性にいち早く気づき、対策を人一倍していました。だからこそ、とてもおどろきました。今までA君の家族とは、外に出かけられなくなった時はおたがいに助け合ってきました。「今度はこちらの番だね。」母も私も同じ意見で

した。A君のお母さんは濃厚接触者で、お父さんは仕事で忙しく、だれも買い出しに行けません。私は母と二人で栄養、健康を考えて色々な料理をたくさん作りました。おいしい、おいしいととても喜んでくれました。家に帰って私はある事を考えました。「A君はしばらく学校に行けないんだな。そうなると、勉強がおくれて大変になるな。」と。私も体調不良で学校を休むと、勉強のおくれが出て、不安になる事があります。私は、今自分に何が出来るか考えました。でも良い案が浮かびません。そこで母に相談しました。すると、

「A君にはドリルとノートをコピーして、

B君には二年生の時のドリルをあげたら？」ととても良い案を出してくれました。「お大事に。」というメッセージをそえてわたしました。でも、ひとつ不安な事がありました。他の友達や学校の先生が同じようなことをしてくれているのではないかと思ったのです。

その日の夜にA君のお母さんから電話がかかって来ました。

「ノートとドリルのコピーありがとう、本当に助かりました。」

と言ってくれました。私はほっとしました。それから十日ほどたったある日。A君とお母さんが、

「長い間本当にありがとうございました。」とお礼を言いに来てくれました。私はためらわずに行動して良かったと心の底から思いました。

『困った時はお互い様』それはみんなが分かっている事です。でも、助ける助けられる、親切にする親切にされるというあたり前の事が出来るのは、恵まれた環境に私が居るからだと思えました。今回のように助けたいと思っただけの事が出来る環境ばかりではありません。それが出来る事の幸せを感じる事が出来ました。そして無駄になるかもしれないという不安を捨てて行動する大切さに気付きました。親切は迷わず行動する勇気だと思います。

小さな親切の積み重ね

浜松市立井伊谷小学校 六年

山本 苺

「どんな人にも優しく接しなさい。」

小さいころからお母さんに言われてきました。

私は、だれに対しても優しくしたり、他人を優先したり、困っている人を助けたりしてきたつもりでいます。忘れ物をしてしまう子のためにえんぴつや消しゴムの予備を持って行ったり、小さい子が困っていたら、どうしたの、と声をかけるようにしてきました。この前、学校で一緒に遊んでいた一年生の子の歯が抜けました。その時に、その子が困っていたのでティッシュを渡し歯を包んで持って帰れる様に袋を渡しました。その夜、その子のお母さんから、私のお母さんに連絡が来てありがとうと伝えてもらいました。学校ではキラキラカードに「やさしい」と書いてもらったりしました。その事をお母さんに話すと、

「人に優しくすると自分に返ってくるんだよ。」
と言っていました。

「だけど見返りを求めて優しくするものじゃないよ。」

とも言っていました。それは私も分かっています。

この前、こんな事がありました。私が習い事に行っている時いつもは、終わる時間より早く迎えに来ているお母さんですが、その日は終わってもなかなか迎えに来ませんでした。どうしたんだろう、と思っていた時お母さんが来ました。何をしていたか聞くと、

「横断歩道の真ん中で車いすのおじいさんが車いすがこわれて動けなくなってしまうから、周りにいた人たちと、車から出て助けていたんだよ。」

と教えてくれました。おじいさんは、ありがとうと感謝していたよと、教えてくれました。それを聞いた時、そんなお母さんが、ほこらしく思いました。そして、知らない人なのに車から出て来て助けようとする周りの人もすごいなと思いました。私は

いい町に住んでいるなと思いました。お母さんは、初め一人でおじいさんを動かそうとしても重くてできなかったけどすぐにたくさんの人が集まってくれたと言っていました。

小さな優しさがたくさん集まると、目に見える大きな力に変わるんだなと感じました。そして小さな優しさは大きい信らいへもつながっていくんじゃないかと思えます。私は、これからもだれにでも優しくありたいです。それは、人間だけじゃなく、犬やねこなどの動物や、こん虫、草花にも同じ気持ちでいたいです。



入選